

アーケードが「大家族」

分散コアで再生する福祉の街へ

従来の大家族は不測の事態を人の支え合いで乗り越え、信頼関係を築いてきた。しかしモノが氾濫する現代、私たちは人ではなく政策やモノに頼り、社会や他者との関係性が希薄化しつつある。また善意から生まれた福祉施設は健康者と福祉者の間に立つ障壁になり、いわゆる「施設送り」のように家族や町と切り離された閉鎖的な空間になってしまった。これに対し福祉には、モノを頼る心理面と、外部と分断された物理面の両方からの課題解決が必要だと考えた。

そこで私たちは、これまで地域のコミュニティを築いてきた商店街を活用し、福祉機能の分散化を図ることで新しい福祉コアのあり方を提案する。分散化により街の日常生活に福祉機能が溶け込むことで、子ども、高齢者、障がい者そして健康者の接点を増やし、従来の大家族のように街単位で支え合うケア拠点を目指す。

